

(別記様式)

令和5年度 府立舞鶴支援学校行永分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>教育目標「よく学びより鍛えそしてよりよく挑め」を達成するため、特別支援教育を通して、学習指導要領や学校教育の重点に基づき、指導及び実践に努める。</p> <p>1 特別支援教育の推進</p> <p>(1) 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。</p> <p>(2) 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。</p> <p>(3) 言語活動、コミュニケーション能力の育成及びキャリア教育の充実により、自立と社会参加を目指す。</p> <p>2 学力の充実</p> <p>個別の指導計画に基づき、具体的な指導目標や指導内容を明確化し、基礎・基本を重視する授業の創意工夫に努める。</p> <p>3 心身の育成</p> <p>(1) 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密接に連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切に作る心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 「医療との連携・協働」 隣接する医療機関との連携・協働の下、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを進めた。感染対策を講じながら、地域社会をはじめとする外部の人的資源を活用し、ホームページ等を通じて広報に努めた。</p> <p>2 「交流及び共同学習の一層の推進」 従前の取組に加え、保護者居住地の「居住地」校との交流を進めた。行永分校児童の「学び」の場になったことに加え、訪問先小学校の同学齢児童にとっても、共生社会の一翼を担う市民としての資質を育む一助となった。</p> <p>3 「キャリア教育の推進」 『学校だより』や様々な研修会などを通じて、12年間を見通した情報提供や意識啓発に取り組み、保護者アンケートからも良好な回答を得ることができた。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>1 「医療との連携・協働の下で個に応じた指導の深化」 感染対策を講じながら、児童生徒の実態に応じて、人的資源を有効に活用し、「学びの質」保障に努める。</p> <p>2 「交流及び共同学習の一層の深化」 広い視野から、児童生徒の新たな「学び」の場として「居住地」校を含めた様々な連携を深め、児童生徒の啓発的体験や「気づき」を深化させることに努める。</p> <p>3 「保護者等に信頼される学校づくり」 各々の児童生徒が自らの障害の特性に応じて、その可能性を十分に開花させ、様々な学習場面で頑張る様子をホームページなどに掲載し、保護者のリモート配信等による授業参観などの機会を充実する。</p> <p>4 ICT機器の活用による学習の拡充 ICT機器（タブレット端末、PC等）などを有効に活用し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを一層進め、児童生徒の最善の「学び」となるように創意工夫を図る。</p> <p>5 実態に応じた適切な教育課程の編成 「個に応じた指導」の充実に向けて、児童生徒にとっての実態に応じた効果的な教育課程の編成に努める。</p>	<p>1 医療機関との連携・協働を通じ適切な感染対策を講じながら、児童生徒の「安心・安全」な学習環境の確保に努める。</p> <p>2 地域などの小学校・中学校との交流も含め、個に応じた「交流及び共同学習」を進める。また、外部の人的資源の有効活用を図る。</p> <p>3 児童生徒の様々な学習場面をホームページに適宜掲載するなど、積極的な情報発信に努め、教育活動の理解の促進を図る。</p> <p>4 ICT機器やデジタルアプリなどのソフトウェアの活用を進め、児童生徒にとっての最善の「学び」となるように創意工夫を図る。</p> <p>5 「個に応じた指導」の一層の深化を図り、児童生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し一人一人を伸ばす「授業づくり」「授業改善」に努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	1 児童生徒、保護者、地域から信頼され、地域とつながる学校運営	(1) 各種会議を充実させ、児童生徒の実態把握に努め、適切な学習環境の確保に努める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種会議の改組充実を進めteamsを活用しペーパーレス化を図るなど教職員の負担加重防止を図った。</li> </ul>
		(2) 分掌間及び教職員間の連携により、児童生徒一人一人を伸ばす環境づくりに努める。	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策を実施しながら学部の枠をこえた集団づくりに努め、全校集会等を開催、数年ぶりに水治訓練室でのプール学習を実施できた。</li> </ul>
		(3) 外部の人的資源を有効に活用し、学校行事等の教育活動を充実させ、広報活動の活性化を図る。	A			<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の障害の特性に応じて外部の人的資源を有効活用し、企業人材やオペラ歌手などの特設授業、教職志望大学生、看護学生等実習を受け入れた。HPを積極的に更新し教育実践の「見える化」を一層進めた。</li> </ul>
	2 防火・防災教育、健康・安全教育的の充実	(1) 防火・防災に関する情報共有及び避難訓練や不審者対応研修等を通して危機管理意識を高める。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に引き続き各種訓練・研修を実施し、防火防災意識を高め、不審者対応訓練を本格実施できた。</li> </ul>
		(2) 児童生徒の学習環境・生活環境から危険情報を収集し、適切に回避することにより、安心・安全な環境づくりに努める。	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検を複数回実施し、危険予測箇所把握と改善に努め保健部「舞鶴市内の感染症り患者数」の周知に努め、教職員の感染防止にかかる意識深化を図った。</li> </ul>
	3 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携	(1) 医師、看護師等と丁寧な連絡調整を行うとともに、必要に応じて児童相談所や行政機関等との連携を図る。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な「学び」を保障する観点から行事への医療職派遣等を円滑に実施することができた。</li> </ul>
(1) 参観日や懇談会、学校行事、PTA 行事の機会を捉え、オンライン機器なども活用しながら関係機関との連携を密にする。		A			<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し、前籍校との連携を強化した。リモート配信に加え、保護者が児童生徒とともに協働する「授業」を実施できた。</li> </ul>	
事務部	1 児童生徒の深い学びを実現可能とする支援	(1) 学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、学校機能の維持向上に努める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>消耗品等において余裕を持った購入が叶わなかった部分もあった。</li> </ul>
		(2) 教材教具の新規購入や更新により、学びが深いものになるように支援する。	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>予算を活用し、修繕工事を行うなど学習環境の向上に努めた。</li> </ul>

小学部 中学部	1 健康なからだづくりと生命維持力と育成	(1) 関係分掌との連携を深め、安全と健康に留意し、教育活動を進める。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の日々の健康状態や活動について自立活動担当や保健部と連携した取組を進めた。</li> <li>・生徒指導部や保健部が医療機関や警察と連携し、交通安全教室や各種研修を実施し、安心安全な学校生活への意識向上につながった。</li> <li>・両センターの医師、看護師との各種連絡会を定期的実施し、児童生徒の体調や指導について情報を共有した。また、医療職派遣事業を活用し、安心安全な学校行事を運営できた。</li> <li>・リハビリ相談を通して、連携先の医療専門職と児童の課題を共有したり、疑問を尋ねたりできた。今後もリハビリ相談を継続実施したい。</li> <li>・避難訓練では両センターと連携して実施できた。病棟への連絡方法等に課題があり、最終確認等を徹底する必要がある。</li> <li>・長期欠席が続く児童について環境や体調が許すならば、面会や訪問教育が行えたらよい。</li> </ul>	
		(2) 医療機関及び関係機関・団体との連携を密にし、心身の安全を図るよう努める。	B				
	2 主体的に学ぶ力の育成と個に応じた指導による基礎学力の向上	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、実態に応じた取組や指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の障害特性や興味関心に応じた活動を追究し、学習指導要領の趣旨に沿って、実態に合わせた教育課程の編成と丁寧な学習指導を行った。</li> <li>・自立活動担当と連携し、実態に合わせて計画的に指導できた。</li> <li>・生活単元学習や遊びの指導では教科の視点を意識し、学習内容を組み立てた。今後は学習したことを日常生活に般化できるように指導を継続していく。</li> <li>・行事等、取組ごとに振り返る場面を設けて学級で認め合うことができた。</li> <li>・前籍校や保護者と連携しながら進路指導を行うことができた。</li> <li>・「9年間を見通した進路指導計画作成のための課題表（重度重複部門）」</li> </ul>		
		(2) キャリア教育の視点からの実践により、将来を展望する力を育成する。（小学部）	B				
		(3) キャリア教育の視点からの実践により、希望進路実現に向けた指導を進める。（中学部）	B				
		(4) ICT機器等を有効に活用し、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりを進める。	A				

小学部 中学部 【再掲】	2 主体的に学ぶ力の育成と個に応じた指導による基礎学力の向上【再掲】	(4) ICT機器等を有効に活用し、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりを進める。 【再掲】	A	B	A	<p>を基に、進路指導を意識した授業づくりができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「受験勉強の仕方」「5教科の学習時の配慮事項」を作成し、生徒の学習指導に生かし、前籍校に引き継ぐことができた。</li> <li>・ICTを活用した実践を行い、タブレット端末を活用しながら児童の意欲を引き出す授業づくりを行った。更なるICTの活用に取り組みたい。(リモート授業等)</li> <li>・児童の興味関心や体調に合わせ、教材を工夫し、精選した指導ができた。</li> <li>・キャリア教育の視点を意識した取組を行っていく。そのために、医療機関との連携を強化したい。</li> </ul>
	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成	(1) 学級活動を基盤として、こころの育みを大切に、自他共に思いやる力を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を意識できる場面を設定し、児童に言葉かけを行うことで、児童が友達を応援する等思いやる場面が見られた。</li> <li>・担任と生徒間で良好な関係を築き安心して学習に向かうことができた。</li> <li>・児童が各行事や集会に意欲的に参加し集団活動を楽しむ取組ができた。その中で自分の役割を果たし、他の友達を意識することができた。</li> <li>・計画的に居住地交流を行い、児童のコミュニケーション能力や社会性を意識した活動を行うことができた。</li> <li>・地域の学校との交流や児童同士の交流により、いろいろな人と関わり、お互いの理解を深めた。</li> <li>・活動の内容を丁寧に伝え、交流学習に意欲的に取り組めた。</li> </ul>	
		(2) 学校行事や集団活動への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力を育成する。	A			
(3) 地域等の小学校・中学校との連携を図り、児童生徒の体験を深め、社会性を養う。		A				
教務部	1 学習指導要領に基づいて、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成・実施	(1) 各教科等を合わせた指導において、教科の視点を意識した個別の指導計画を作成する。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で使用する基本の指導案書式に道徳の指導項目を追加し、指導の際に意識できるようにした。</li> </ul>
		(2) 自立活動担当者や関係機関と連携しながら、アセスメントから個別の指導計画作成までの流れを整理する。	B			

教務部 【再掲】	1 学習指導要領に基づいて、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成・実施【再掲】	(3) 道徳教育の全体計画別葉に基づき、日々の教育活動で道徳教育を推進する。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画作成時に各教科等を合わせた指導では該当する教科名を記入するようにした。</li> <li>・(重度重複) 自立活動部が中心となり、アセスメントツールとして感覚運動発達アセスメント (MEPA) の活用を始めた。</li> <li>・(準ずる) 複数の入院児童生徒の転入があったが、時間割を工夫し、個別のニーズに応じた教育課程を編成実施できた。</li> <li>・次年度は学校計画の中で「準ずる」部門の適切な教育課程作成に向けた目標を立てていけるとよい。</li> <li>・月替わりの季節掲示など、教育環境充実に取り組めた。</li> <li>・特別教室の校内使用割り当て表を2種類作成し、在籍児童生徒の実態に合わせて使用し便宜性を高めた。</li> <li>・出席簿のエクセルファイルの不具合を改善した。</li> <li>・在籍児童生徒数の増減によって必要となる教室環境等が変わるため柔軟に対応できる体制を今後も考えていけるとよい。</li> </ul>
	2 学習環境の整備・充実と校務の円滑化	(1) 教室や教材等の整理整頓を行う。	A	B		
		(2) 部内の業務内容を整理し、校務の円滑化を図る。	B			
		(3) 校務システム等、業務の効率化に向けた取り組みを進める。	B			
生徒指導部	1 基本的生活習慣の形成・確立	(1) 各学級の実践を基盤にして、友だちや役割を意識した集団活動を進める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会では、児童生徒の興味関心に合わせた活動を通してお互いに交流を深め、日々の学習の成果を発表する場にもなった。</li> <li>・交通安全指導では、警察署と連携し、交通ルールについて実態に即した指導を行うことができた。</li> </ul>
		(2) 社会的なルールを守り、安全に留意し、よりよい生活を目指す力を育む。	A			

生徒指導部 【再掲】	2 児童生徒の実態に即した人格形成と仲間づくり及び人権意識の高揚	(1) 両部門の狙いをふまえつつ、児童生徒の交流を深め、主体的な自治活動を推進するとともに、互いを尊重する心を育む。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での役割を意識した活動として、「重度重複」部門での給食献立の貼替活動を継続できた。</li> <li>・いじめ等の問題行動の事案はなかったが、引き続き日々の指導や早期発見に努めたい。</li> </ul>
		(2) いじめ、問題行動等の未然防止及び、早期発見に努め、児童生徒の特性等に応じた指導を行い、速やかな対応・解決に努める。	A			
進路指導部	1 保護者、関係機関等との連携と、組織的・計画的・継続的な進路指導の推進	(1) 卒業後の教育と、生活や保障についての研修を進める。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校との連携やPTAとの共催で舞鶴市の福祉事業所フェアへの参加や福祉施設見学等を実施し、卒業後の進路や生活について研修を進めることができた。</li> <li>・学校だよりや、個々に応じて進路に関する情報の発信や提供に努めることができた。</li> <li>・保護者、前籍校、関係機関と学習面や生活面での状況と課題を丁寧に連携して進路指導を行い、前籍校につながることができた（準ずる）。</li> <li>・舞鶴こども療育センターとの進路連絡会で個々の進路について共通理解を図り、取組を進めることができた（重度重複）。</li> <li>・保護者のニーズに応える研修の計画・実施に向けて、PTAとの連携を図ることができた。</li> <li>・小学部から中学部を見通した進路指導計画や進路指導計画作成のための課題表を作成し活用することができた。</li> </ul>
		(2) 進路に関する情報の収集と、発信・提供を行う。	B			
		(3) 小学部から中学部を見通した進路指導の計画の作成に取り組み、系統的に指導を行う。	B			
	2 進路を主体的に切り開く能力や態度の育成に向けた取組推進	(1) 保護者、関係機関等との連携を図り、児童生徒の状況と課題を共通理解して日々の支援・指導を行う。	A	A		
(2) 個々に応じた進路の実現に向けて、取組を進める。		A				
保健部	1 元気で楽しい学校生活の推進	(1) 医療との連携を密にし、健康状況や病状を的確に把握する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関と連携し、日々健康状況や病状等の連絡を取り、児童生徒の体調や様子を把握できた。</li> <li>・月毎の保健目標に合わせた掲示を行った。</li> <li>・養護教諭が担任と連携し、各学級で保健指導を行った。スムーズに受診できるよう事前学習を行い</li> </ul>
		(2) 基本的な生活習慣を身につける保健指導を進める。	A			

保健部 【再掲】	1 元気で楽しい学校生活の推進 【再掲】	(3) 児童生徒が健康に関する基礎的な知識をにつけ、病気を回復改善できる力を育てる。	A	A	A	<p>「元気玉」取組で意欲を高めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月毎のテーマに沿って『ほげんだより』を発行した。</li> <li>・「冬休みのくらし」や「大きくなるっていうことは」の全体指導を行った。</li> </ul>
	2 健康なところと身体をつくる 取組の推進	(1) 安全な学校生活を送ることができる環境をつくる。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を実施し、安全な環境づくりに取り組んだ。</li> <li>・学校薬剤師による環境衛生検査を計画的に行った。</li> <li>・心肺蘇生法研修会や感染予防研修会を実施し、教職員の意識高揚を図ることができた。</li> </ul>
		(2) 健康安全、医療的ケア等の教職員の研修を進めることにより、児童生徒の健康安全の意識高揚を図る。	A			
研究部	1 児童生徒の実態や課題に応じた授業を実施するための研究の推進	(1) 学習指導要領の理解を深め、「資質・能力の三つの柱」の視点についての授業研究を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に小学部B組、2学期に中学部A組、3学期に小学部A組が研究授業を行った。事後研究会では特に「思考力・判断力・表現力」について討議を行い、授業改善につなぐことができた。</li> </ul>
		(2) 授業実践を共有し、よりよい教育課程について検討する。	A			
	2 教職員の専門性向上のための研修の推進	(1) 授業改善と専門性の向上のための研修会を行う。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践交流会を行い、各学級の児童生徒の実態や教育課程及び授業実践について交流した。</li> <li>・スキルアップ研修会を実施し『特別支援教育総論、生徒指導Ⅰ・Ⅱ、自立活動、道徳教育とカリキュラム・マネジメント、コーチングのスキルと活用』などの動画を視聴した。</li> <li>・1学期の研修内容を交流する夏季研修報告会を実施、学校教育に関わる今日的な課題の理解を深める研修会を実施した。</li> <li>・夏季ICT実践発表会を実施し、ICTや先端技術を活用した授業実践について交流した。</li> </ul>

情報広報部	1 情報視聴覚機器活用の推進	(1) 情報視聴覚機器および校内LANの保守管理を行い、効率的な利用環境を保つ。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を整理整頓し、保管場所を変更し、効率よく利用できた。</li> <li>・校内LANやタブレット端末周辺機器の断線に対応し、共有ファイルの使用について再確認した。</li> <li>・保守管理や効率良く使用するため貸出簿利用を促進する必要がある。</li> <li>・ICT機器使用のサポートを適宜行い、研修『情報フェス』を実施し困りごとやニーズを共有した。</li> <li>・校内での Teams の活用が広まり、授業でのタブレット端末の使用も増えた。効果的な使用の促進のためにさらに研究をしていく。</li> <li>・セキュリティポリシーの確認、インシデント事例、セキュリティ対策の周知、情報セキュリティ・モラルに関する研修動画を周知した。</li> <li>・日々の生徒の様子を随時発信、自立活動のページの充実を図り、閲覧数が増えた。</li> <li>・年度当初にホームページ作成研修を実施し、『作成マニュアル』を作成した。今後、学級や分掌などいろいろなところから発信し、ホームページの充実を図りたい。</li> </ul>
		(2) ICT機器活用に関する研修の実施やサポートを行い、情報視聴覚機器の利用を促す。	A			
		(3) セキュリティ対策の啓発を行い、個人情報の保護に努める。	B			
	2 ホームページからの情報発信の推進	(1) ホームページの保守管理を行い、円滑に運営、閲覧できるようにする。	A	A		
		(2) ホームページの作成や更新を適宜行い、内容を充実させる。	A			
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「安心・安全」な環境づくり、外部の人的資源を有効に活用した創意工夫を凝らす学習を展開していると評価している。</li> <li>②近隣小・中学校との交流及び共同学習に加え、居住地校交流を進め、大きな「学び」の場になったことを評価している。</li> <li>③児童生徒のようすをホームページに随時掲載するなど、積極的な情報発信に努めていると評価している。</li> <li>④ICT機器やデジタルアプリなどのソフトウェアの活用を進め、創意工夫を図りつつあることを評価している。</li> </ul>					
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医療機関との連携・協働の下、児童生徒の教育的ニーズに適切に応える「個別最適な学び」の一層の深化</li> <li>②「交流及び共同学習」及び「居住地」校を含めた「交流」の更なる拡大と外部の人的資源の活用の促進</li> <li>③ICT機器の活用による授業改善、学習の深化、児童生徒の実態に応じた適切な教育課程の編成</li> </ul>					